

序

——日本医学教育学会50周年を迎えて——

鈴木 康之

日本医学教育学会 理事長

本白書はわが国の医学教育の現状・課題・展望を報告することを目的として、4年ごとに発刊されてきました。今回の2018年版は日本医学教育学会が1969年に設立されて以来50周年を迎える節目の白書となりますが、この半世紀、わが国の医学教育は、インターン制度、大学紛争、一県一医大構想、先端医療、医療倫理、少子高齢化、地域医療問題、教育方略の革新、情報通信技術革命、社会格差などの様々な課題に直面し、それを乗り越え発展してきました。また近年では、医療者・患者の国際移動、国際貢献と協働、分野別評価体制の構築など、医学教育の国際化が急速に進行しています。これもまた日本にとってのチャレンジでありチャンスでもあります。こうした歴史的経緯を踏まえ、わが国の医学教育が今後さらに国民のため、世界のために貢献することが求められています。

今回、本学会の50周年に際して、国際的リーダーであり私たちの大切な友人である4名の先生から心温まるからメッセージをいただきました。David Gordon先生は世界医学教育連盟（WFME）会長として何度もわが国を訪問していただき、暖かなお人柄でわが国の医学教育の国際化やプレゼンス向上に尽力していただいています。Duksun Ahn先生は元韓国医学教育学会（KSME）会長、前アジア太平洋地区医学教育連盟（AMEWPR）会長、そして現在はWFME副会長として、アジアに対する深い理解のもとに、日韓交流と国際化に様々なアドバイスをいただいています。Michael Field先生はAMEWPR（現WPAME）会長として、アジア太平洋地区の国々の親交と連携、医学教育の活性化を図っていただいています。関本恒夫先生は日本歯科医学教育学会理事長として、私たちの学会と文字通り手を携えて、わが国の医療の向上に取り組んでいただいています。皆様のメッセージからは、医学教育が一人の力では為し得ないと同様に、一国・一組織の力だけでも為し得ないものであることが痛感されます。

この白書が医学教育関係者の皆様に様々な視点を提供し、優れた医師・医療人の育成に資することを心から願っています。